保険薬局での「ID-Link」を利用した検査値確認の有用性について

株式会社山下至誠堂

古屋秀人

【背景・目的】保険薬局では検査値を確認してからの処方箋監査や服薬指導、健康アドバイスをする事が増えてきている。当薬局でも検査値からの指導は「ID-Link」の仕組みを採用したピカピカリンク「佐賀県診療情報地域連携システム」が導入されている。保険薬局の薬剤師はこのシステムを利用することで、患者の検査値を経時的に確認していくことができ、それをもとに調剤業務、服薬指導、生活習慣改善のアドバイスを行うことができる。今回、「ID-Link」を利用した事例から保険薬局の薬剤師が「ID-Link」を利用することで期待される役割を検討する。

【方法】2016年4月～2018年3月までの期間の「ID-Link」登録患者35名中の疑義照会での処方変更件数19名で7名で検査値（eGFR,HbA1c）をもとに疑義照会を行った。（eGFR低下患者のアロプリノールからフェブリクへの処方変更、メトホルミン中止、HbA1cが下がってきた患者のSU薬減量等）また、服薬指導に推定塩分摂取量からの減塩指導を経時的な検査値を見せながら指導した。健康相談でも配置薬のNSAIDｓを服用している腎機能低下患者へのアセトアミノフェン製剤の提案を行った。

【結果】疑義照会後すべて処方変更になっており、その後健康被害は起こっていない。推定塩分摂取量を見ながら毎回減塩指導をしていくことで、14.7ｇ→12.3ｇ→9.1gと減っていくことで減塩へのモチベーションが上がった。配置薬のNSAIDｓをOTCのアセトアミノフェン製剤へ変更してもらうことでeGFR低下は起こっていない。

【考察】「ID-Link」の利用により過去から現在までの継続的な検査値の一覧、入院中の検査値、処方内容も確認できることで一つの検査結果だけでなく、経時的な検査結果から疑義照会をする事ができ医師に確認しやすくなった。検査結果を患者と見ながら服薬指導や健康アドバイスをする事で、患者の理解力向上、結果が良くなることでモチベーションの向上になる。

今後「ID-Link」のような診療情報地域連携システムが広がっていくと考えられるが、「ID-Link」を利用し患者の過去と現在の状態（検査値）を薬剤師と患者本人が目で見て確認することは、医薬品適正使用への貢献や治療へのモチベーション向上にも役立つと考えられる。

【キーワード】検査値、ID-Link、疑義照会、服薬指導